

事例番号:290004

原因分析報告書要約版

産科医療補償制度
原因分析委員会第五部会

1. 事例の概要

1) 妊産婦等に関する情報

6回経産婦

2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 38 週 3 日

1:00 陣痛開始のため入院

4) 分娩経過

妊娠 38 週 3 日

5:23 経膈分娩

胎児付属物所見 臍帯真結節あり

5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:38 週 3 日

(2) 出生時体重:2754g

(3) 臍帯動脈血ガス分析値:pH 7.405、PCO₂ 40.9mmHg、PO₂ 30.9mmHg、
HCO₃⁻ 25.1mmol/L、BE 0.3mmol/L

(4) Apgar スコア:生後 1 分 8 点、生後 5 分 9 点

(5) 新生児蘇生:実施せず

(6) 診断等:

生後 6 日 退院

生後 3 ヶ月 定頸なし、体幹が緊張気味、反射亢進あり

生後 4 ヶ月 左下肢優位の強直性痙攣あり、症候性てんかんの診断

生後 8 ヶ月 座位未

(7) 頭部画像所見:

2 歳 4 ヶ月 頭部 MRI で脳室周囲白質軟化症 (PVL) を呈している

6) 診療体制等に関する情報

(1) 施設区分: 病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師: 産科医 2 名、研修医 1 名

看護スタッフ: 助産師 2 名、看護師 1 名

2. 脳性麻痺発症の原因

(1) 脳性麻痺発症の原因は、分娩前のどこかで生じた脳の虚血 (血流量の減少) により脳室周囲白質軟化症 (PVL) を発症したことであると考える。

(2) 胎児の脳の虚血 (血流量の減少) の原因を解明することは難しいが、臍帯圧迫による臍帯血流障害の可能性を否定できない。

3. 臨床経過に関する医学的評価

1) 妊娠経過

(1) 妊娠中の産科管理は一般的である。

(2) 喘息に対して、内科と併診し管理を行なったことおよび禁煙指導を行ったことは一般的である。

2) 分娩経過

(1) 分娩経過中の管理は一般的である。

(2) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。

3) 新生児経過

新生児管理は一般的である。

4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

観察した事項および実施した処置・検査結果等に関しては、診療録に正確に記載することが望まれる。

【解説】本事例は、妊娠 29 週以降の血圧、浮腫、妊娠 31 週以降の尿蛋白、尿糖、ABR(聴性脳幹反応)検査結果の記載がなかった。観察事項や行われた処置・検査結果等は詳細を記載することが望まれる。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

ア. 正期産での PVL について集積し、その原因や発生機序に関する調査・研究を行うことが望まれる。

イ. 妊婦および妊婦を取り巻く環境における禁煙指導を促進することが望まれる。

(2) 国・地方自治体に対して

なし。